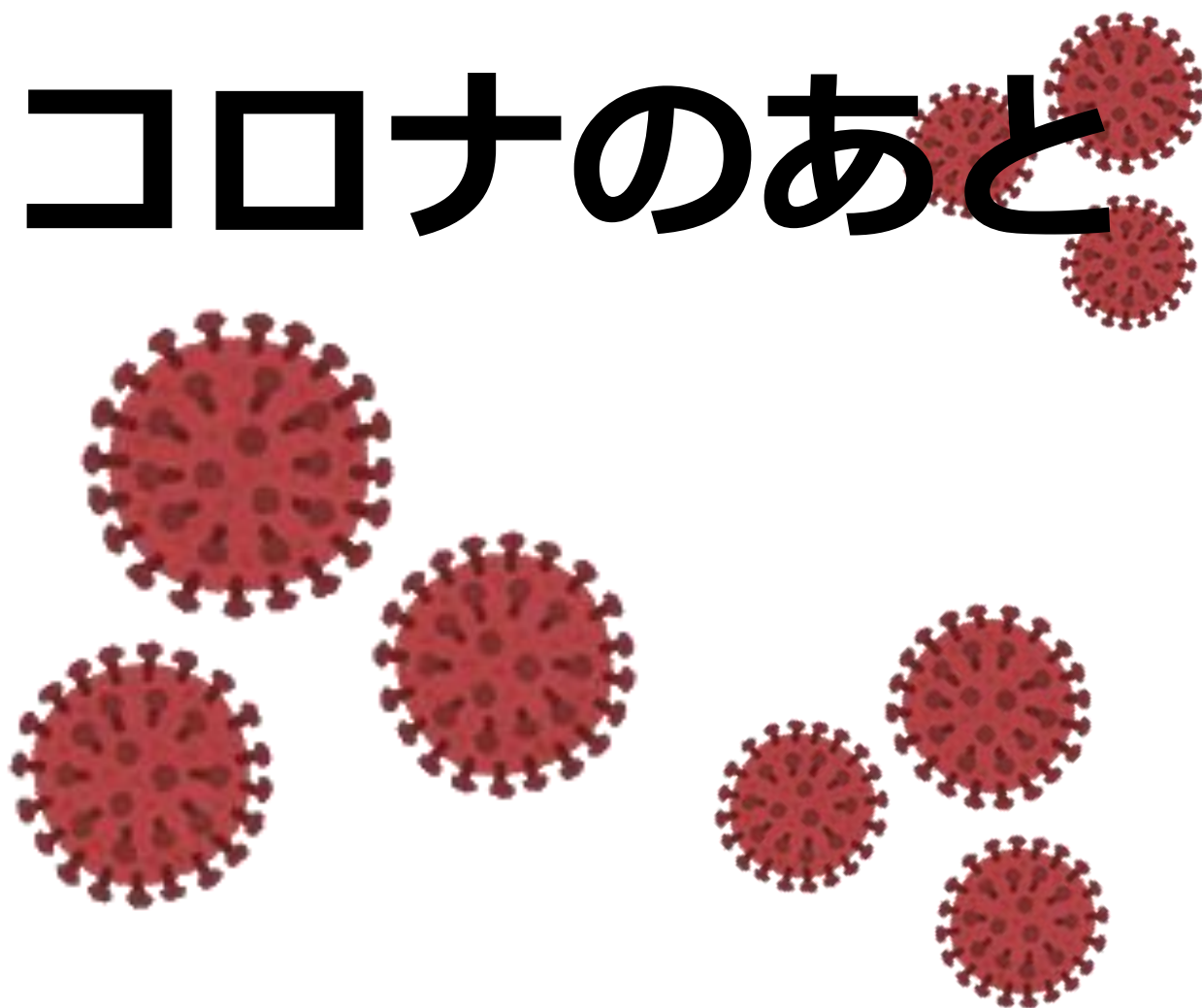


ねん  
2084年

コロナのあと



はなし つく ひと たばた みつえ  
お話を作った人：田畑サンドーム光恵

はなし つく てつだ ひと にしお さちこ  
お話を作るのを手伝ってくれた人：西尾佐知子

げんき  
みなさん、元気でがんばりましょう！

ことし ねん  
今年は 2084年です。

ここはニュージーランドの首都のウエリントンです。

わたし いまだいがく ねんせい  
私は、なおみ・ジョーンズ。今大学2年生です。

きょう がつ にち わたし だい す たんじょう び  
今日3月28日は、私の大好きなおばあちゃんのお誕生日です。

わたし なまえ  
私のおばあちゃんの名前は、ひろこ・ジョーンズです。

ことし さい  
今年で 88歳になります。

おばあちゃんは、若い時日本からニュージーランドに来ました。そして、ニュージーランド人（私のおじいちゃん）と結婚して、ずっとニュージーランドに住んでいます。

きょう かぞく たんじょう  
今日はおばあちゃんのために、家族で誕生パーティをします。

わたし なに はや いえ き  
私は何もすることがなかったから、早くおばあちゃんの家に来ました。

なおみ たんじょう び  
なおみ：「おばあちゃん、お誕生日おめでとう！」

おばあちゃん はや  
おばあちゃん：「あら、なおみ、早いよね。」

なおみ  
なおみ：「うん。」

おばあちゃん：「じゃあ、ちょっとお茶でも飲みましょうか。」

なおみ：「そうだね。私がお茶をいれてあげるわ。」

なおみ：「さあ、どうぞ、おばあちゃんの好きなオレンジ・ペコよ。」

おばあちゃん：「ああ、ありがとう。」

なおみ：「あ、そうだ。クリームの入ったビスケットを買って来たの。」

一緒に食べよう！」



おばあちゃん：「このビスケット、すごくおいしいわね。」

なおみ：「うん、すごく流行ってるの。日本のビスケットよ。名前も可

愛いの。コロナっていうのよ。」

おばあちゃん：「コロナ。。。おばあちゃんは、その名前はあんまり好きじゃないわ。」

なおみ：「えー、どうして。」

おばあちゃん：「60年以上前に流行ったウイルスの名前と同じだから。」

なおみ：「60年以上前に流行ったウイルスの名前。。。ああ、新型コロナって言われたやつでしょ。COVID何とか？」

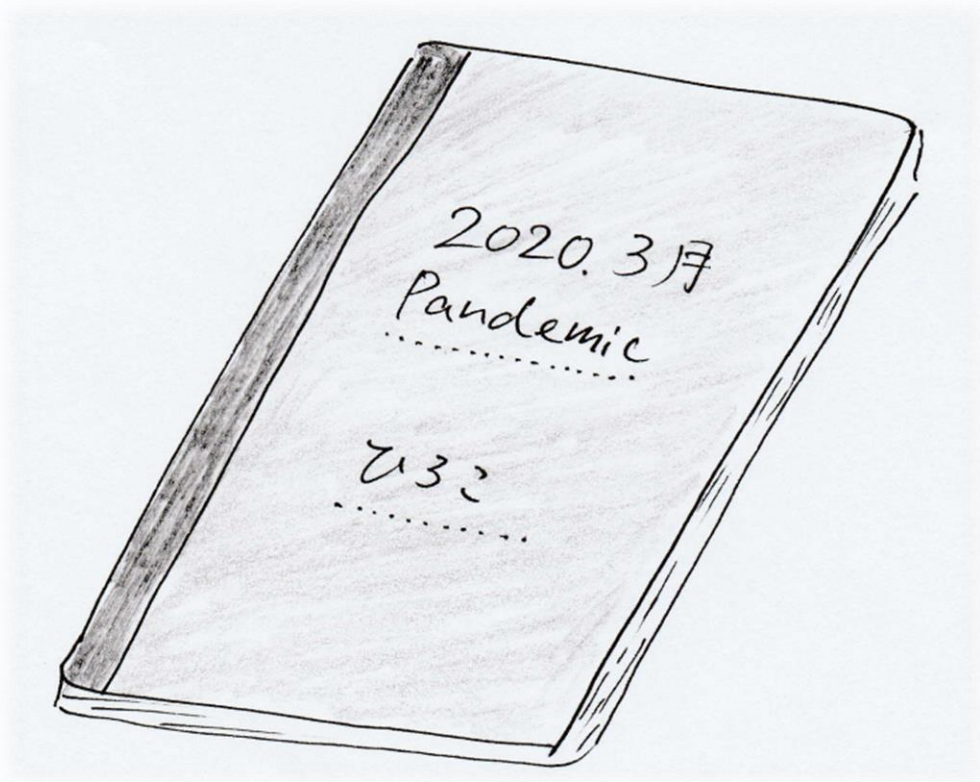
おばあちゃん：「COVID-19よ。」

なおみ：「ねえ、おばあちゃん、その時の話を聞かせてよ。学校で習ったけど、あんまりよく知らないの。たくさんの人がそのウイルスで死んじゃったんでしょ。」

おばあちゃん：「そうね。じゃ、話してあげようか。」

そう言うと、おばあちゃんは隣の部屋に行って、一冊のノートを持って来ました。

おばあちゃん：「このノートにね、COVID-19の流行った時のことを書いてあるの。」



おばあちゃんのそのノートには、<sup>しゃしん</sup>写真や、<sup>きぬ</sup>ポスターの切り抜きなんか  
<sup>は</sup>が貼ってあって、あちこちにメモが書かれていた。ちょっと日記帳み  
たいだった。

おばあちゃん：「<sup>ねん</sup>2020年の<sup>がつ</sup>3月<sup>にち</sup>26日に、ニュージーランドでは

Total Lockdown <sup>はじ</sup>を始めたの。」

なおみ：「Total Lockdown って？」

おばあちゃん：「ニュージーランド人 <sup>じんみんな</sup>皆が、スーパーとお医者さん <sup>いしゃ</sup> 以

<sup>がい</sup> 外 <sup>ところ</sup> の <sup>い</sup> 所 <sup>い</sup> に行 <sup>いえ</sup> ってはいけ <sup>い</sup> ない <sup>い</sup> と <sup>い</sup> 言 <sup>い</sup> わ <sup>い</sup> れ <sup>い</sup> た <sup>い</sup> の。 「<sup>い</sup> ず <sup>い</sup> っ <sup>い</sup> と <sup>い</sup> 家

なか い  
のなかにいなさい」、って言われたの。」

なおみ：「仕事しごとや学校がっこうは？」

おばあちゃん：「仕事しごとも学校がっこうも行けなかったのよ。」

なおみ：「えー、うそ。信じしんられない。」

おばあちゃん：「うん、おばあちゃんも信じしんられなかった。おばあちゃん

は、ちょうどおじいちゃんおじいちゃんと結婚けっこんしたばかりだったか

ら、ニュージーランドニュージーランドにいる事ことにしたけど、外国がいこくにも、

他の町ほかまちにも行ってはいけません、って政府せいふが決めたの

よ。」

なおみ：「どうして？」

おばあちゃん：「うん、ニュージーランドでは、COVID-19にかかった

人ひとが100人にんを超えた時ときに、Total Lockdownをしよう

って決めたのよ。最初さいしょ、COVID-19は、2020年ねんの1月がつ

に中国ちゅうごくで大流行だいいりゅうこうしたの。たくさんちゅうごくの中国ちゅうごくの人ひとがウイ

ルスにかかって、死しんだ人ひともたくさんいたの。」

なおみ：「えー。」

おばあちゃん：「でも、2月、3月になって、イタリアやスペイン、イギリス、ドイツ、そしてアメリカでもどんどん流行が広がっちゃって。イタリアなんかは、一日に700人以上の人が死んじゃって、大変だった。」

なおみ：「こわ～い。」

おばあちゃん：「そうね。ニュージーランドの人もそれをニュースで見ている、このウイルスがとても怖いものだっていうのは知っていたから、ニュージーランドの中でウイルスにかかった人が100人以上になった時、「早くウイルスに勝たなきゃいけない」から、政府がTotal Lockdownをするって決めたのよ。」

なおみ：「ふ～～～ん。。。」

おばあちゃん：「なおみには、ピンと来ないかな。COVID-19はね、すごくうつりやすいウイルスだったのよ。だから、とにかく、人と人が会わないことがとても大切だったの。」



政府のコロナ・ポスター、わかりやすくて○。

おばあちゃん：「ほら、このポスターを<sup>み</sup>見てごらんなさい。これは、政<sup>せい</sup>

府<sup>ふ</sup>が<sup>つく</sup>作った COVID-19 のポスターよ。手<sup>て</sup>を<sup>あら</sup>洗<sup>いち</sup>うのがー

ばん<sup>ばんたいせつ</sup>大切<sup>い</sup>だと言<sup>い</sup>われたわ。「マスクは<sup>こうか</sup>効果<sup>か</sup>がありませ

ん。」と政府<sup>せいふ</sup>が<sup>い</sup>言<sup>い</sup>っていたけど、おばあちゃんはマスク

がほしかったの。それで、た<sup>みせ</sup>く<sup>い</sup>さんのお店<sup>い</sup>に行<sup>い</sup>ったけ

ど、ど<sup>う</sup>こにも<sup>う</sup>売<sup>う</sup>って<sup>う</sup>い<sup>う</sup>な<sup>う</sup>か<sup>う</sup>った<sup>う</sup>わ。」



なおみ：「どうして？」

おばあちゃん：「みんながパニックになって、マスクやせっけんや、パ

ン、<sup>かんづめ</sup>パスタ、<sup>すこ</sup>缶詰なんかを少しでも<sup>たくさん</sup>沢山買おうってスー

パーや<sup>やっきよく</sup>薬局に<sup>お</sup>押し<sup>か</sup>掛けたの。<sup>にほんご</sup>日本語では「<sup>か</sup>買いだめ」

<sup>い</sup>って言うのよ。おばあちゃんは、のんびりしてるから、

<sup>か</sup>買い物に行くのが<sup>もの</sup>ちょっと<sup>い</sup>遅<sup>おそ</sup>かったのね。ははは。」

なおみ：<sup>たいへん</sup>「大変だったんだ。」

おばあちゃん：「<sup>な</sup>そうそう、<sup>いちばんこま</sup>トイレトペーパーが<sup>な</sup>無くて一番<sup>こま</sup>困った

な。<sup>おな</sup>ハンドサニタイザーも、マスクと同じくらい<sup>はや</sup>早くに

<sup>みせ</sup>お店からなくなったわ。」

なおみ：<sup>そうぞう</sup>「なんか、想像できないなあ。」

おばあちゃん：「<sup>み</sup>ほら、こっちを見て。これはね、スーパーのオンライ

ン・<sup>じ</sup>デリバリー<sup>かんひょう</sup>の<sup>ぜんぶ</sup>時間表。全部いっぱいでしょ。」



なおみ：「ほんとだ。」

おばあちゃん：「自分でもスーパーに行けるんだけど、なるべく外に行かない方がいいって言われてたのよ。どうしてもオンライン・ショッピングができない時はね、おじいちゃんがマスクをして、スーパーに行ってくれたの。買い物は家族の中で一人だけしか行けなかったから。」

なおみ：「すごルールが<sup>きび</sup>厳しいね。」

おばあちゃん：「それだけじゃないわよ。<sup>ちい</sup>小さなコンビニだったら、お

<sup>みせ</sup>店の中には、<sup>なか</sup>一回に<sup>いっかい</sup>一人の<sup>ひとり</sup>お客さんしか入れなかった

<sup>ほか</sup>の。だから、<sup>ひと</sup>他の人は<sup>そと</sup>外で<sup>となり</sup>隣の人から<sup>ひと</sup>2メートル以上<sup>いじょう</sup>

<sup>はな</sup>離れて<sup>なら</sup>並んで、<sup>みせ</sup>お店に入れるまで<sup>はい</sup>待ってたの。そうそ

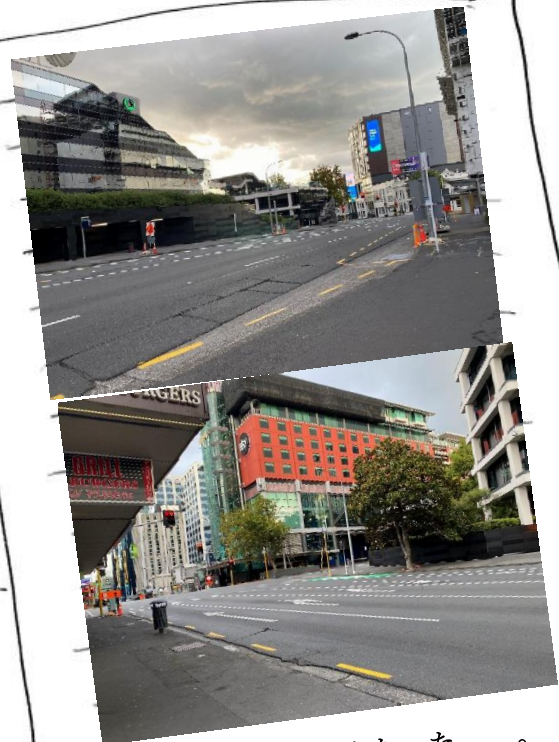
<sup>しゃしん</sup>う、この<sup>み</sup>写真を見て。おばあちゃんの<sup>み</sup>アパートから、<sup>み</sup>イ

<sup>ひと</sup>ンドの人が<sup>み</sup>やってる<sup>み</sup>スーパーが見えたんだけど、そのス

<sup>はい</sup>ーパーに入る<sup>じゅんばん</sup>順番を<sup>ま</sup>待っている<sup>ひと</sup>人たちの<sup>しゃしん</sup>写真よ。」



— インド料理のスーパー、まじ混み！



そして、誰もいなくなった。。。

なおみ：「すっごい、<sup>たいへん</sup>大変だ。」

おばあちゃん：「そうよ。とにかく<sup>いえ なか</sup>家の中<sup>ひと あ</sup>にいて、人に会わない！それ

が<sup>だいじ</sup>とても大事なことだったのよ。そうしたら、ウイルス

が<sup>ひろ</sup>広がらないからね。で、<sup>じん</sup>ニュージーランド人は、

Lockdown のルールを<sup>まも</sup>よく守<sup>おも</sup>ってたと思うわよ。ほら、

こ<sup>しゃしん</sup>っちの写<sup>となり みち</sup>真は、<sup>じん</sup>ニュージーランド TV の<sup>となり</sup>隣<sup>みち</sup>の道。

<sup>ふ つう こ</sup>普通は混<sup>とき だれ</sup>んでるのに、この時<sup>だれ</sup>は誰もいないでしょ。」

なおみ：「でも、<sup>いえ なか</sup>ずっと家の中<sup>だれ</sup>にいたら、<sup>だれ</sup>ストレスがたま<sup>だれ</sup>らなかった？」

おばあちゃん：「<sup>ちい こども</sup>小さい子供<sup>たいへん</sup>がいるおうちは大<sup>たいへん</sup>変だったでしょうね。お

じいちゃんとおばあちゃんは、オンラインでズンバの<sup>せん</sup>先

生<sup>せい</sup>のライブ<sup>あ</sup>に合<sup>おど</sup>わせて踊<sup>み</sup>ったり、ヨガのビデオ<sup>み</sup>を見て

ヨガ<sup>えいが</sup>をしたりしたの。映画<sup>み</sup>もた<sup>きょう</sup>くさん見<sup>きょう</sup>たわ。「今日は

Movie Night に<sup>き</sup>しよう！」って決<sup>き</sup>めて、デザート<sup>き</sup>やポッ

プコーン<sup>か</sup>をオンライン・ショッピ<sup>えいが</sup>ング<sup>えいが</sup>で買<sup>えいが</sup>って、映<sup>えいが</sup>画<sup>えいが</sup>を

見<sup>み</sup>たりしたの。」

なおみ：「わ、それは楽し<sup>たの</sup>そう！」

おばあちゃん：「うん、色々<sup>いろいろ</sup>工夫<sup>くふう</sup>したら、外<sup>そと</sup>に出<sup>で</sup>られないことを我慢<sup>がまん</sup>できたわ。でもね、みんな怖<sup>こわ</sup>かったと思<sup>おも</sup>うわよ。「自分<sup>じぶん</sup>がウイルスにかかったらどうしよう」って思<sup>おも</sup>っていたんじゃないかしら。」

なおみ：「おばあちゃんも怖<sup>こわ</sup>かったの。」

おばあちゃん：「もちろん怖<sup>こわ</sup>かったわよ。「もし自分<sup>じぶん</sup>が病<sup>びょう</sup>気<sup>き</sup>になっておじいちゃんにうつしちゃったらどうしよう」、っていつも考<sup>かん</sup>えてた。おじいちゃんは、スポーツマンだったけど、喘息<sup>ぜんそく</sup>の病<sup>びょう</sup>気<sup>き</sup>があったから。喘息<sup>ぜんそく</sup>の人<sup>ひと</sup>はね、COVID-19にかかった時に病<sup>びょう</sup>気<sup>き</sup>が他<sup>ほか</sup>の人<sup>ひと</sup>より悪<sup>わる</sup>くなるって言<sup>い</sup>われてたから。」

なおみ：「そうなんだ。」

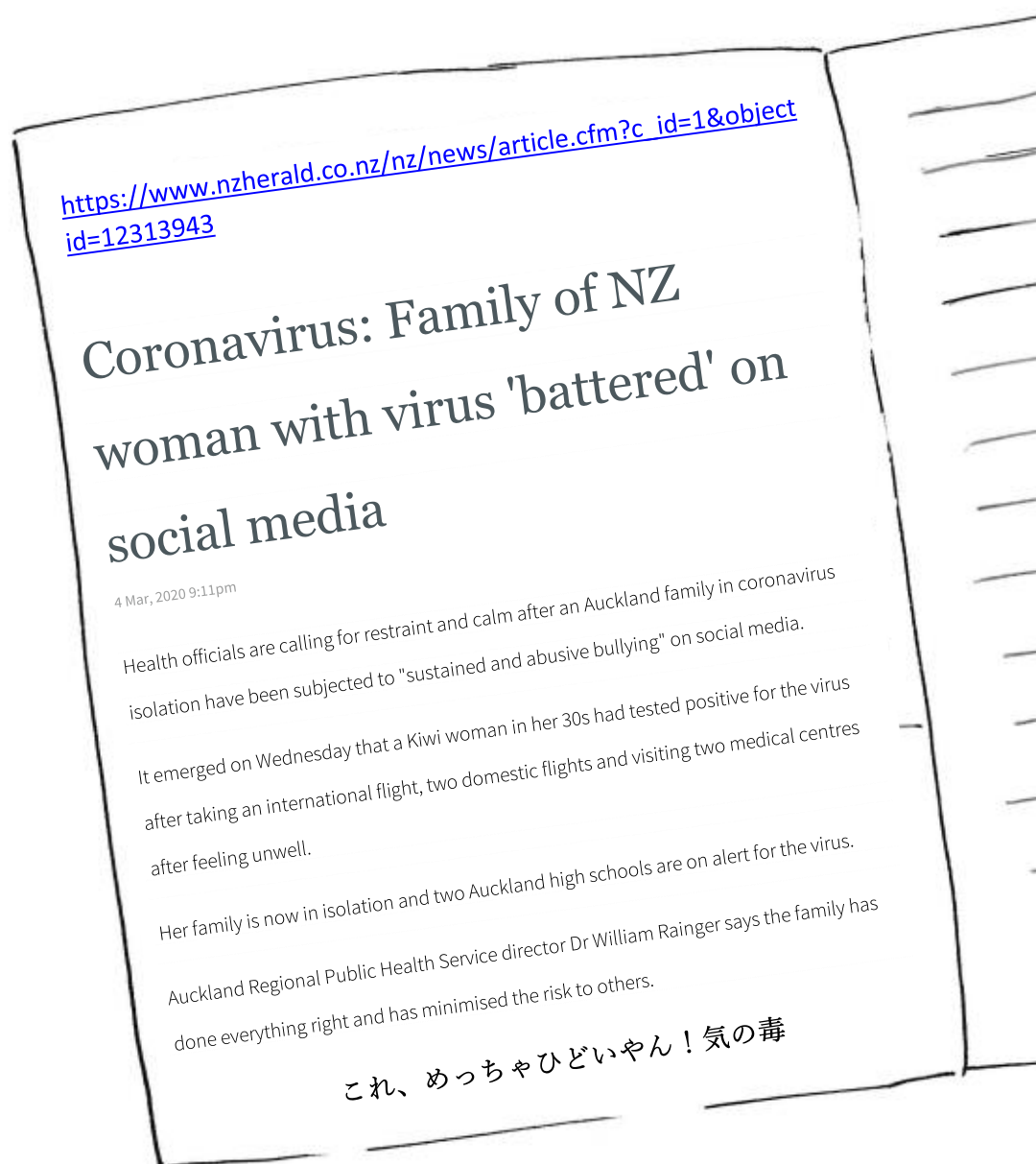
おばあちゃん：「それとね、自分<sup>じぶん</sup>が COVID-19にかかったら、いじめられるんじゃないかなって心<sup>しん</sup>配<sup>ぱい</sup>だった。」

なおみ：「どうということ？」

おばあちゃん：「うん。ニュージーランドで2人目かな、COVID-19

にかかった女の人と家族がね、オンラインですごくい

じめられたのよ。これがその記事よ。」



なおみ：「病気になる人、ひどいね、それ。」

おばあちゃん：「それに、<sup>ちゅうごく</sup> <sup>ひと</sup> 中国の人がいやがらせを受けたりもしたっ  
て <sup>はなし</sup> <sup>き</sup> 話 も聞いたわね。」

なおみ：「<sup>か</sup> 買いだめとか、<sup>じんしゆ</sup> <sup>さ</sup> <sup>べつ</sup> ネットいじめとか、<sup>たいへん</sup> <sup>とき</sup> 人種差別とか、<sup>たいへん</sup> <sup>とき</sup> 大変な時  
なのに、みんなひどいよね。」

おばあちゃん：「<sup>たいへん</sup> <sup>とき</sup> そうね。大変な時だから、<sup>だれ</sup> <sup>ひと</sup> <sup>だれ</sup> <sup>じ</sup> 誰がりっぱな人で、誰が自  
<sup>ぶん</sup> <sup>か</sup> <sup>つ</sup> <sup>て</sup> <sup>ひと</sup> 分勝手な人かはっきりわかったのよ。お医者さんとか、  
<sup>かん</sup> <sup>ご</sup> <sup>し</sup> 看護師さん、おまわりさん、<sup>スーパー</sup> <sup>の</sup> <sup>ひと</sup> スーパーの人たちは、ウイ  
<sup>ルス</sup> <sup>に</sup> <sup>か</sup> <sup>か</sup> <sup>る</sup> <sup>か</sup> <sup>も</sup> <sup>し</sup> <sup>れ</sup> <sup>な</sup> <sup>い</sup> <sup>の</sup> <sup>に</sup>、<sup>みんな</sup> <sup>を</sup> <sup>た</sup> <sup>す</sup> 助けるために  
<sup>いっ</sup> <sup>し</sup> <sup>ょう</sup> <sup>けん</sup> <sup>めい</sup> <sup>は</sup> <sup>たら</sup> 一生懸命働いてくれてた。イタリアのお医者さんたち  
<sup>つ</sup> <sup>く</sup> <sup>ど</sup> <sup>う</sup> <sup>が</sup> <sup>み</sup> が作った動画を見たんだけど、<sup>まい</sup> <sup>に</sup> <sup>ち</sup> 毎日Googleをして  
COVID-19 <sup>かん</sup> <sup>じゃ</sup> の患者さんを助けてるから、<sup>め</sup> <sup>まわ</sup> 目の周りにGo-  
<sup>あ</sup> <sup>と</sup> ールの跡がくっきりとついているのよ。<sup>ほん</sup> <sup>とう</sup> 本当に、すごい  
<sup>おも</sup> なあと思ったわ。」

なおみ：「<sup>わたし</sup> <sup>たい</sup> <sup>へん</sup> <sup>とき</sup> そうか。私も大変な時に、<sup>ほか</sup> <sup>ひと</sup> <sup>た</sup> <sup>す</sup> <sup>にん</sup> <sup>げん</sup> 他の人を助ける人間になりたい  
な。」

おばあちゃん：「<sup>わたし</sup> <sup>たい</sup> <sup>へん</sup> <sup>とき</sup> そうね。おばあちゃんも、<sup>な</sup> <sup>お</sup> <sup>み</sup> <sup>に</sup> <sup>は</sup> <sup>そ</sup> <sup>ん</sup> <sup>な</sup> <sup>人</sup> <sup>に</sup> <sup>な</sup> <sup>っ</sup> たらいいな。」

てほしいな。それからね、おばあちゃんね、その時<sup>とき</sup>とっ

てもいい記事<sup>きじ</sup>を見つけた<sup>み</sup>のよ。それは、イスラエルの大<sup>だい</sup>

学<sup>がく</sup>のハラリ<sup>せんせい</sup>っていう先生<sup>か</sup>が書いた<sup>きじ</sup>記事<sup>せん</sup>だったの。その先

生<sup>せい</sup>ね、こう書いて<sup>か</sup>たの。「そう、嵐<sup>あらし</sup>はきっと過ぎて<sup>す</sup>い

きます。人間<sup>にんげん</sup>は生き残り<sup>い</sup>ます。私<sup>わたし</sup>たちの多く<sup>おお</sup>がまだ生

きているでしょう。でも、嵐<sup>あらし</sup>の後の<sup>あと</sup>世界<sup>せかい</sup>は違うもの<sup>ちが</sup>に

なっているでしょう。」って書いて<sup>か</sup>たの。それで、私<sup>わたし</sup>

は「絶対<sup>ぜったい</sup>人間<sup>にんげん</sup>は COVID-19<sup>ま</sup>に負けない。だから、

COVID-19<sup>あと</sup>の後の<sup>かんが</sup>ことをしっかり考<sup>かんが</sup>えて、Lockdown

の<sup>の</sup>き<sup>き</sup>も乗り切<sup>おも</sup>らなきゃいけない<sup>おも</sup>んだ！」って思<sup>おも</sup>ったの。」

なおみ：「その先生<sup>せんせい</sup>の言う<sup>い</sup>通り<sup>とお</sup>になった<sup>にんげん</sup>ね。人間<sup>にんげん</sup>は COVID-19<sup>か</sup>に勝<sup>か</sup>つ

たんだよね。でも、どうやって<sup>か</sup>勝<sup>か</sup>ったの、おばあちゃん。」

おばあちゃん：「それはね、」

(おしまい。1937語<sup>ご</sup>)

Comments from Mitsue Tabata-Sandom: At the time of writing this story (March 31, 2020), NZ is in the Total Lockdown to combat the wide-spreading COVID-19 infection. The whole experience is surreal. The article by highly revered Prof. Yuval Noah Harari mentioned above can be found: <https://www.ft.com/content/19d90308-6858-11ea-a3c9-1fe6fedcca75>